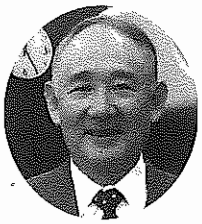
林業技術センター
普及班便り
（第59回）

いわての林業人38

小笠原耕男氏農林水産大臣賞を受賞
～第52回全国林業経営推奨行事～


小笠原耕男氏

1　はじめに

今年度の全国林業経営推奨行事において、二戸市の小笠原耕男氏が、昨年度の大﨑善實氏に続き、10年振りの2年連続受賞となる農林水産大臣賞（全国で8名、東北で1名）を受賞され、去る11月20日、東京都内において賞状伝達贈呈式が行われました。

同行事は、森林所有者（法人等を含む）の林業技術及び経営意欲を高め、林業所得の安定的向上を通じて林業の近代化、産業的発展を図ることを目的に毎年実施されているものです。今年度も全国から多数の応募があり、その中で小笠原氏は優れた林業経営者であり、かつ地域林業の振興に対する貢献などの功績が認められ受賞されました。

2　経営概要等

森林面積91haを所有し経営しております。樹種構成は、スギ41％、アカマツ17％、カラマツ16％、広葉樹26％となっております。スギ、カラマツ人工林などでは優良大径材の生産を目標に適期に間伐を実施しています。

人工林は、路網整備と間伐を主体とした森林管理を行っています。広葉樹林は、高齢級林約15ha以上を所有していることから、育成天然林整備にも力を入れています。

3　経営目標

(1)　計画的間伐による優良大径材生産

伐期を80年以上に設定し、本格的な優良大径材生産を目指しています。

間伐等の森林施業は、森林組合に委託する一方で、自身もフォワーダ1台、グラップル1台を購入し、搬出間伐を実践しており、間伐材は地元の製材所などに販売して林業所得の向上に努めています。

また、間伐材の搬出は用材及びパルプ材で、3ヶ年平均で、面積約40haの間伐を実施し、搬出量は約500㎥の材を生産しています。

なお、皆伐跡地は、スギとカラマツを適地に再造林し、「伐ったら植える。」を実践しています。

(2)　有用広葉樹の育成管理

広葉樹は、森林経営計画に基づき、計画的な伐採を行い、「更新伐」を積極的に進めていくこととしていますが、特にも有用広葉樹の育成に力を入れており、所有のクリ林のうち1.4haが、平成25年3月19日に、文化庁から「ふるさと文化財の森・二戸市金田一川クリ林」に指定されました。

(3)　高密路網整備による低コスト化

低コスト作業を進めるため、路網の高密度化により定性間伐と有用広葉樹の搬出作業の効率化に努めており、作業路のコースの選定を行うとともに、自ら重機を運転して開設しています。路網整備状況は、林道千m、作業道5千400m、計6千400mを積極的に開設し、ha当たり、約70mの高密路網を実現し、低コスト化を図っています。

4　山への思い

小笠原さんは、18歳の時に家を継いでから現在まで、45年以上にわたって、毎日継続して農林業経営について『作業日誌』にまとめ、経営改善に努めてきています。また、氏の山への思いをつづった『山の記』には、「私が、山へ通うのは、日ごろの忙しい世界からの逃避。厳寒の凛とした中での森林浴。祖父、父との思い出と過去の体験場所との出会い。里山、森林活用による地域の賑わいと再生。自分の財産の価値と自己満足。永続的生活用水の確保。まだまだ挙げれば出そうだ。いずれ、山には山ほどヒントがある」と記しています。

5　これからの山づくり

基本的な考え方として、常に環境問題を頭に入れ、自然を大事にしていこうと考えながら山仕事に従事しています。今は木材価格が低迷していますが、自分の山を立派に仕上げることで、「地域の森林所有者が山に対して少しでも関心を持ってくれれば良い」との思いで、日々山の手入れをしています。

6　地域林業振興に対する貢献

金田一川林業実行組合長を20年以上に渡って務め、地域林業の先導的役割を担ってきており、地元の名士として活躍しています。

また、岩手県指導林家として、各種講習会などでも活躍しています。

さらに、所有森林を小中学校の森林教育、林業体験のフィールドとして開放するなど、森林・林業教育にも積極的に取り組んでおります。

7　おわりに

林業を取り巻く環境が厳しい中で、農林水産大臣賞を受賞されたことは、本人はもとより地域の林業関係者にとっても大きな励みであり、今後益々のご活躍を期待しております。

林業技術センター普及班
０１９（６９８）１３３７